

# 知事記者会見の概要

日 時：平成30年1月16日(火) 10:00～10:34

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 「日本一の滝王国山形フォトコンテスト」の審査結果について
- (2) 台湾でのトップセールスの実施について

### 代表質問

- (1) 2018シーズンのモンテディオ山形に対する期待等について

### フリー質問

- (1) 庄内地域への中高一貫校の設置について
- (2) IWC2018「SAKE 部門」審査会の山形開催について
- (3) 県立病院の医療情報システムの更新について

< 幹事社：山新・時事・SAY >

## ☆ 報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。

ここ数日間、各地で大変厳しい冷え込みが続きました。地域によっては、観測史上最低の気温になったところもあったと聞いているところですよ。今朝の山形の最低気温は、マイナス1.7℃でありましたけれども、朝晩を中心に路面が非常に滑り易くなっておりますので、県民の皆様には、転倒事故やスリップ事故などに十分ご注意くださいと思います。

一方、本日、16日から18日にかけて最高気温が平年よりかなり高くなることが予想されております。雪崩や落雪が発生する可能性もありますので、今後とも気象情報に十分にご留意のうえ、くれぐれも事故のないようお願いしたいと思います。

それから、IWC、インターナショナル・ワイン・チャレンジ「SAKE部門」の審査会の本県開催についてお知らせいたします。

IWC「SAKE部門」審査会につきましては、昨年来、本県での平成30年度の開催に向けて招致活動に取り組んできたところであります。

このたび、IWCを主催する英国のウィリアム・リード社と本県開催に関して概ね合意に達し、今月の1月30日に契約調印式を実施する運びとなりました。この契約締結をもって、正式に本県開催が決定されることとなります。

IWC「SAKE部門」審査会につきましては、世界最大規模のワイン品評会の日本酒部門であり、世界的にも影響力が大きい審査会であります。国内での開催は、東京都、兵庫県に次いで3回目、東北では初めての開催となります。

昨日、この山形県開催を円滑に進めるための地元の支援組織であります「IWC2018『SAKE部門』やまがた開催支援委員会」を、市町村や山形県酒造組合をはじめとする関係団体の皆様とともに設立をしたところであります。今年5月の開催に向けて準備を着実に進めてまいります。

世界に誇る山形の酒ということで、ここ（補足：パネルを掲げて）に5点ほど書いてございますけれども、これは、ぜひ県民の皆さんにしっかりと山形県の酒の実績というものを再認識していただいて、県民の皆さんお一人お一人が営業マンとなって、山形県のお酒をPRしていただきたいなという思いでございます。

本県の日本酒、清酒は、ご承知のように、都道府県としては初めての地理的表示GI「山形」の指定を受けました。また、IWC「SAKE部門」金メダル受賞数は4年連続第1位、全米日本酒飲評会金賞受賞数は10年連続第1位でございます。それから、株式会社フルネットによります地酒人気銘柄ランキングは12年連続第1位という非常に高い評価を得ております。さらに、県産日本酒の輸出量が東北第1位でございます。新しい酒造好適米「雪女神」がデビューするなど、追い風が吹いている状態でございます。

まさに今、このタイミングで、IWC「SAKE部門」審査会を東北で初めて、本県で開催することは、世界に向けて山形を発信する絶好のチャンスと考えております。

この機会に、関係者が一丸となって、日本酒はもちろんのこと、食や観光など山形県の魅力を大いに国内外にアピールして、県産品の取引拡大や観光誘客の増加などに結びつくよう取り組んでまいりたいと考えております。

では、恒例となりました祭りやイベントをご紹介します。

1月19日から21日まで、蔵王ジャンプ台で「FIS（フィス）スキージャンプワールドカップレディーズ2018蔵王大会」が開催されます。世界の女子トップジャンパーの華麗でスピード感あふれる大飛翔を、ぜひ、ご覧いただければと思います。また、20日から、山形市の蔵王温泉スキー場で「スノートレッキング」が行われます。“輪かんじき”を履いて、山岳インストラクターの案内により蔵王の大自然を体感いただけるイベントでございます。蔵王山頂付近の樹氷原（じゅひょうげん）を歩くトレッキングなどを楽しむことができるものです。

他にも、20日から、米沢市の小野川温泉や白布温泉、湯の沢温泉の温泉街に巨大かまくらが出現します。かまくらの中には、テーブルとイスが設置され、温泉街の飲食店から米沢ラーメンなどの出前をとって、かまくらの中で召し上がっていただくこともできます。

私も小野川温泉のかまくらで出前をとったことがあるのですが、携帯電話が置いてあって、それで注文して、食べましたが、寒い中で食べる熱いラーメンは格別の味でございました。県民の皆様も、ぜひ、お出かけいただければというふうに思っております。

私から2つ発表がございます。

まず、1点目でございますけれども、県では、「滝の数日本一の滝王国」であることを広く周知し、県内外の方に滝の魅力に触れていただくことを目的に、「日本一の滝王国山形」フォトコンテストを実施しました。そうしたところ、このたび入賞作品が決定しましたのでお知らせするものであります。

本コンテストでは、県内にある滝の写真を昨年6月14日から11月30日まで募集し、229名の方から501作品のが応募がありました。創意工夫あふれるレベルの高い作品が数多く寄せられました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞4点を決定しました。

最優秀賞は、真室川町の土倉（つちくら）の滝を撮影した、山形市の富樫辰也（とがしたつや）さんの「光射す（ひかりさす）滝」となりました。このパネルでございます。滝に差し込む朝の木洩れ日が美しい作品でございます。これら入賞作品を中心に、2月はモンベル山形店において、3月は霞城セントラルにおいて展示会を実施します。この機会にぜひ、四季折々のバラエティに富んだ「日本一の滝王国山形」の魅力に触れていただければというふうに思います。

では、2つ目ですけれども、明後日、1月18日から22日までの5日間、私を団長として本県観光関係者や農業関係者とともに台湾を訪問し、トップセールスを実施してまいります。

今回の用務は、台北市及び高雄市におきまして、昨年9月に日本から台湾への輸出が再開

された牛肉をはじめ、つや姫、果物、日本酒など県産品のプロモーションを行いますとともに、台湾国際教育旅行連盟の本部がある台中市におきまして、教育旅行誘致拡大の働きかけを行うものであります。

また、昨年度、本県と経済交流・文化交流等に関する友好協力の覚書を結んだ宜蘭（ぎらん）県庁及び高雄市役所などへの訪問も行いまして、更なる交流拡大に向けて意見交換を行ってまいります。

覚書の締結を契機として、宜蘭県におきましては、県内市町による宜蘭県での観光PRや舞踏団の派遣、高雄市におきましては、本県への教育旅行に積極的に取り組んでいただいているほか、市内大手百貨店における県産品のプロモーションの実施など、様々な交流の成果が生まれてきております。

このたびのトップセールスによりまして、更なる県産品の輸出拡大やインバウンドの誘客拡大、交流拡大に結びつけてまいります。

私からは以上です。

## ☆ 代表質問

### 記者

さくらんぼテレビの渡邊と申します。よろしくお願いいたします。事前通告をしていた内容について1点質問させていただきます。

2018シーズンのモンテディオ山形に対する期待等についてです。

今年なのですが、平昌（ピョンチャン）オリンピックや、サッカーワールドカップなどスポーツが注目される年となっております。そのような中、県内スポーツの顔とも言えるモンテディオ山形が、今日、キャンプインしまして、今シーズンの戦いに向けて始動します。木山体制2シーズン目となりますが、知事は、今シーズンのモンテディオに対して、どんな戦い、結果を期待しているのかお伺いしたく存じます。また、県としてどのような支援を考えていらっしゃるのかも改めてお聞かせいただきたいと思っております。

### 知事

はい。平昌（ピョンチャン）オリンピックでは、我が国の選手はもちろんのこと、特に本県ゆかりの選手が大舞台でメダルを獲得してくれることを心から期待し、楽しみにしているところです。また、サッカーでは、本県出身の土居聖真（どいしょうま）選手が昨年12月に東アジアE-1（イーワン）選手権の日本代表に選出されました。ワールドカップでも本県出身選手が代表に選ばれて活躍することを期待しているところであります。

さらに、冒頭で発言したのですけれども、FIS（フィス）スキージャンプワールドカップレディース 2018 蔵王大会が間もなく開催されます。スキージャンプ競技の中で世界最高峰の大会が山形県内で開催されるということは大変喜ばしいことでもあります。出場する日本選手には、大いに活躍していただきたいと思っております。特にですね、高梨沙羅（さら）選

手には、ぜひこの蔵王大会で男女を通して歴代単独最多記録となる 54 勝目の実現に向けて、力を発揮していただきたいというふうに思っているところです。

これから日本では 2019 年にラグビーワールドカップ、2020 年には東京オリンピック・パラリンピック大会と、世界的なスポーツイベントが 2 年連続して開催されます。県としましては、市町村とも連携してホストタウンの登録や事前キャンプの誘致に取り組み、スポーツを通じた海外との交流拡大を図ってまいりたいと考えております。

さて、モンテディオ山形ということでありますけれども、2018 シーズンのキックオフイベントが 1 月 14 日に開催され、私も激励のメッセージをお届けしたところであります。新たな体制も固まって 1 か月後に迫っている開幕戦に向け、新戦力として加入された選手を含め、十分にトレーニングを積んで、万全の態勢で開幕戦を迎えられることを期待しているところであります。

木山監督のもと、これまで積み上げてきたチーム力を土台に、新たな息吹を吹き込み、今年こそ J1 への昇格を勝ち取り、県民の皆様に元気と感動を与え、全国に山形旋風を巻き起こして山形を力強く発信していただきたいと思っております。

県民がモンテディオ山形に対して強く望んでいることは、山形県のプロサッカーチームとしての誇りを胸に J1 の舞台で華々しく活躍してもらいたいと思っております。県としましても、そのことを切に期待しておりまして、できる限りの支援をしてまいりたいと考えているところでございます。

## ☆ フリー質問

### 記者

YBC の高山です。先週なのですけれども、酒田市の丸山市長が、教育長に対して庄内地域への中高一貫校の設置についての要望を行ったのですけれども、その中で、庄内地域への中高一貫校の設置については、庄内地域全体の意見を聞いてほしいという要望がありました。

知事として、今回の中高一貫校の設置の方針と丸山市長からの要望について、どのようにお考えかということをお伺いしたいと思います。

### 知事

はい。丸山市長から教育長に対して、そういった要望があったということは聞いてはおりますけれども、内容までは詳しくは聞いておりませんでした。

内陸におきまして、東桜学館という中高一貫校ができたわけでありまして、庄内のほうでもそれを望んでいる声があるということは、前から聞いていたところであります。

庄内全体で、少子化でありましたり、高校再編の動きでありましたり、いろいろなことがあることも存じてはおりますけれども、中高一貫校ということで、教育委員会でいろいろな角度から検討して進めているのかなというふうに思っております。

もちろん地元と一緒に話し合いをしながら、対話をしながら進めているのではないかと

うふうに思っておりますけれども、教育委員会からは来ていますでしょうか。

教育庁総務課長

教育庁総務課長の奥山でございます。

中高一貫校についての酒田市の要望につきましては、とりあえず 2 月に鶴岡市で中高一貫校に係るシンポジウムが開催されるということで、そちらのほうに出席する予定にしております。

鶴岡市以外につきましても、機会を捉えて住民への説明を続けて、県の考え方をご理解いただくように努めてまいりたいということでございます。

知事

ということでもありますので、やっぱり全体的なことも説明しながら、少子化といったことだと思っておりますけれども、あと、教育委員会の将来に向けてのビジョンといいますかね、中高一貫校をどういうふうにしていくべきかといった考え方、そしてそれに対する地元の考え、受止めといったことで、やはりしっかりと説明をして、話し合いをするということが大事ななというふうに思っております。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

NHK の池川です。よろしく申し上げます。

冒頭発言にございました IWC の関係でちょっとお尋ねというか、ご認識をお伺いしたいのですけれども、今回、世界最大級のワインの品評会の日本酒部門が山形で開かれるという見通しとなったということなののですけれども、現状として、世界における山形の日本酒の位置付けというか、世界でどれだけ知られているのかとか、山形の日本酒が世界でどのあたりに位置付けられているのか、知事のご認識をまずお伺いしたいのと、今回いらっしゃる審査員の方というのは、やはり日本酒にお詳しい、さらに言うと発信力のある方だと思うのですけれども、そういう人たちに山形に来てもらう意義、そして、ちょっと話がずれるかもしれないのですが、このイベントそのものがですね、県民に対してどういう関係があるのか、県民の人たちはどう受け止めているのかという 3 点をお伺いできればと思います。

知事

3 点ですか。まずはその認識ですかね。世界で山形の日本酒がどのくらい認識されていると思うかということですかね、1 点目は。

記者

そうですね。知事、よく海外に行ってトップセールスされていらっしゃると思うんですけど。

知事

そうですね、山形というところまで知られているかどうかだと思います。

日本酒、SAKE(サケ)ということで、和食が世界遺産に登録になって、それに併せて、日本酒がPRされるようになってきているとは思いますが、世界中で少しずつ少しずつ日本の酒ということで愛好者が増えているような気はするのですが、それは「日本」の酒であって、「山形」の酒までにはまだなっていないのかなという感じがいたします。正直なところですね。

だからそこをですね、美酒、うまい酒ですね、美酒県として、「美酒県やまがた」というようなことで、しっかりPRしていこうというようなことを内部でちょっと話し合っているところであります。

2点目は、その、発信力のある…。

記者

そうですね、日本酒に詳しい審査員の方は、特にいろんな業界、媒体に対して発信力のある方だと思うのですが、そういうプロの方々に来ていただいて、いろんな視察だったりですね、山形の日本酒を味わってもらうことの意義はどういうふうに受け止めていますか。

知事

そうですね、山形という場所に来て山形の酒を味わっていただくということは、非常に意義深いことだと思っています。

行ったことのないところを想像しながらというのでは、またひと味違った生の山形を見ていただける、レアの山形を見ていただけるということで、酒蔵もたぶん訪問していただけるのではないかと思いますし、山形のこの空気感ですね、清浄な空気、山がたくさんあって、空気がきれいで水もおいしい、そういうところで本当に真面目でおいしいものを作るために一筋に取り組んでいる県民性といったものも理解していただいて、視覚的にも焼き付けていただけたらと思いますので、審査会ですから、味わってもらうのはもちろんですが、視覚、嗅覚、五感を全部使ってしっかりと山形の酒を印象に残していただけないかなと思っています。そういう実感を持ってですね、山形の酒はやっぱりおいしいということで、だからチャンピオン酒にも2回なったことがあるわけでありまして、発信力のある方々がそういった、実際の山形の空気、そして風土、文化、お酒というものを、なんといいですか、何か上手い表現がないかなと思うんですけども、なかなか難しい

ですが、やはり「百聞は一見にしかず」という言葉もありますけれども、実際に味わって、見ていただける、感じていただけるということが大きいと思いますので、発信する際にもですね、その実感がこもった発信になると思いますので、説得力のある発信となって、多くの方に「酒どころ山形」というところで、大変おいしいお酒、おいしいものを、美酒・美食ということで、山形のPRができるのではないかと考えております。

#### 記者

では、最後に県民の方に対しては、ちょっと遠いのかなとか、自分はあまりIWCは関係ないのかなと思われる方が多いと思うのですが、県民の方がどういうふうを受け止めればいいのかというところはございますでしょうか。

#### 知事

先ほどフリップを掲げさせていただきましたけれども、やっぱり山形の酒が全国で一番だと私は思っていますし、世界的にも本当に素晴らしいお酒だと思っておりますので、県民の皆さんにも、もっともっと自信を持って、自慢してもらいたいですね。ですから、わざと、今までの実績というようなことを掲げさせていただきました。県民の皆さんにこの素晴らしさをもっともっと再認識していただき、また、認識を新たにさせていただいて、お一人、お一人が営業マンになっていただきたいと思っております。つや姫がまさにそうだったと思っております。皆さんが「これはおいしいお米だ」と自信を持っているんな方々にPRしてくださったので、県民みんなが応援団ということになって、ブランド米として着々と地歩（ちほ）を固められているのかなと思っておりますが、これはお酒に関してもやはり、酒どころ山形として自信を持ってPRしていただきたいというふうに思います。これは、お酒を造っている人だけが関係してるわけではなくて、お酒がおいしい酒蔵のところを見たいということで、観光客の人が来たりですね、輸出を増やすことで販売拡大ひいてはその原料である酒米にまで影響していくと私は思っていますので、（補足：「IWC2018『SAKE部門』やまがた開催支援委員会」には）35市町村全部から参加していただけたのですが、山形県全体に影響していくことだと思っております。

ですから、県としても市町村と一緒にですね、もっともっと県民の皆さんにこのIWCの意義ということを知っていただくように努めなければいけないなと思っております。ぜひ、記者の皆さん方にも、そういったことも含めてですね、ただお酒だけの問題ではないというようなことで、多くの県民の皆さんにこういった実績や、影響の大きさ、ひいては地域経済活性化に資するものでありますし、やまがた創生にも結びつくものでありますので、もっともっと宣伝していきたいし、皆さん方のお力添えも賜りたいと思っております。よろしく願いいたします。



記者

河北新報の宮崎と申します。よろしくお願ひします。県立病院のシステム統合のことでお伺ひしたいんですが、昨日、システム入札の審査委員会があつて、入札の方法が決まつて、当初の予定どおり入札されることになる見込みなんですけれども、計上している予算が37億円ぐらいになりますが、これは現行のシステムの契約金額が22億円、2009年に県がシステム統合しようとして4病院の電子カルテなどのシステム統合をしようとしたときの予算額が17億円です。現行のシステムの契約金額の7割増しで、2009年のシステム統合しようとしたときの金額に合わせると倍以上の額になります。この額について知事はどのような認識、適正というような認識でいらっしゃるでしょうか。

知事

病院事業局でしっかりと取り組んでいることだというふうに思つておまして、また、先般、有識者の方々からご意見を頂戴したと思ひます。きちんと公開された会議だと思ひますけれども、有識者の皆さんからも納得していただけたということでありまして、また、12月の県議会でも、県議会議員の先生方にもご説明を申し上げたというふうに聞いておりますので、それは適正なものではないかなと思つております。

記者

わかりました。素人感覚では、今まで使つていたものが倍以上の金額になるっていうのは、機能が相当アップしたのか、そんなことが本当にあるんだろうかというふうな疑問があります。加えて、システムを共通パッケージで導入するということは、1つのスケールメリットがあるわけなんですけれども、病院事業局が説明する理由としては、コスト削減ということが1つの大きな目標だつたと思つているんですけども、今回の場合は、コスト削減というよりも、前回よりも7割増し、2009年に比べると倍以上になっている金額についての意義というか、説明の整合性という点で欠けるような気がするんですけど、その点は、知事ご自身はどういうふうにお考えでしょうか。

知事

そうですね、今、記者さんからそういう疑問の声があつたわけでありまして、そういうお声に対して、病院事業局でしっかりと説明するのではないかというふうに思つております。何も隠してることありませんし、肅々とですね、きちんと取組みをご説明申し上げながら、議会にもご相談しながらやってきておりますので、様々な事情もあるかと思ひますが、そういった疑問の声にきちんとお答えできるように病院事業局で説明をしていくのではないかと思ひます。

記者

最後にお聞きしたいんですけども、知事は常々、主婦目線を大事にしておられるということですが、主婦目線から見てこの予算の付け方っていうのはどういうふうに映っているんでしょうか。

知事

予算ですか。

記者

主婦目線だと、安いもの、いいもの安く買うのが当たり前だと思うんですけども、今回は同じものでも、7割り増し、2倍ということは、主婦目線から見てどういうふう映っていらっしゃるんですか。

知事

同じものかどうかちょっと分かりかねますし、主婦目線というので一刀両断できるものかどうか、ちょっと分からないところがなかなか難しいところであると思います。何よりもまず、今の記者さんの疑問にしっかりと病院事業局で答えるというのが説明を果たすというのが大事ではないかなと思います。

記者

最後に確認なんですけども、ということは、まだ疑問が残っているというような認識で構わないんでしょうか。病院事業局に対する疑問について、議会だったり、県民からもまだ納得を得られていないっていうような認識でいらっしゃるかと考えてもよろしんでしょうか。

知事

12月議会ではご説明申し上げたということをお聞きしております。あと、今、記者さんからそういった疑問の声があったということでもありますので、そういったお声にもしっかりと対応といたしますか、説明をしてもらえればなと思っています。